



リスク因子モデルの 活用方法

ストーマ周囲皮膚障害（PSC）の発生を防ぐ
コンセンサスガイドライン

リスク因子モデルの活用方法

リスク因子モデルは、日頃のストーマケアにおいて個々の患者さんの具体的なニーズを評価するために使用します。これらのリスク因子を把握し、適切な介入をすることで、ストーマ周囲皮膚障害（PSC）による身体的な負担を防ぎ、ストーマを保有する人々の生活を改善することができます。

1

定期的なリスク評価

漏れやストーマ周囲皮膚障害（PSC）を防ぐには、定期的なリスク評価が極めて重要です。手術後の経過年数は関係ありません。

2

リスク因子モデルを確認する

ストーマ保有者と相談しながら3つのリスク因子カテゴリーの内容を確認し、どの内容がストーマ保有者の身体的ニーズや個人的状況に該当するかについて確認します。

3

ストーマ保有者の個人的なリスクを評価する

リスク因子モデルを使用して個々の患者さんに関連するリスク評価と、漏れやストーマ周囲皮膚障害（PSC）を防ぐための適切な介入を行います。

リスク因子モデル

ストーマ周囲皮膚障害（PSC）のリスクを評価します



患者さんの氏名

日付

医療システム

ストーマケアの基準

- 手術前のガイドライン**
ストーマサイトマーキング／配置、患者の手術および術後の生活に対する準備
- 手術のガイドライン**
患者の最良の結果を得るためのストーマ造設のベストプラクティス
- ケアガイドライン**
質の高い術後のトレーニングとフォローアップ
- 慢性疾患を持つ人に対する社会的見方**
地域の文化、統治、価値観がストーマ造設手術後の生活にどのように影響するか

適切なサポート／製品へのアクセス

- 退院後のプログラム**
フォローアッププログラムへのアクセスに対する健康保険・医療制度の影響
- 適切な製品の種類と数量**
あらゆるニーズを満たすストーマ製品へのアクセス

ストーマケアおよび手術方法（術式）に関する教育のレベル

- 医療従事者**
一般的な教育レベル、更なる教育や手術方法（術式）へのアクセス

個人のストーマの状況

体形的特徴

- ストーマ周囲の体形的特徴**
平らである／へこんでいる／ふくらんでいる腹壁と、適切な密着感を提供する製品／ストーマ装具の必要性
- ストーマの構造**
ストーマの高さと位置が装具の装着性と適合性に与える影響
- ストーマ・排泄物の種類**
排泄物の種類、一貫性、量の影響
- 皮膚の特性／条件**
敏感肌、乾燥肌、脆弱肌、脂性肌、油性肌、しわ、傷跡、ひだ、傷や基礎疾患など
- 薬物療法／治療**
免疫抑制剤治療、ステロイド剤、放射線治療、化学療法による副作用
- 障がい**
視力低下、手指巧緻性、車いす使用の影響

精神的な能力

- セルフコンシャス／セルフケア**
ストーマ管理や新しい生活環境への適応能力に影響を与える、否定的な態度や対処能力の欠如
- ストーマ管理**
セルフストーマケアの実践において、ストーマケアの技術と手順を実行する能力社会

社会的状況

- サポート**
助けてくれる家族や友人のネットワーク
- 生活水準**
ストーマ管理に影響を与える可能性のある生活環境と収入レベル

ストーマ製品

使用方法

- 体型への適合**
面板／ストーマ装具が体形に適合している
- ストーマ形状への適合**
面板のホールカットとストーマの間のフィット感
- 装着・取外し**
面板や装具の装着と取り外しの操作が簡単
- 装着時間**
選択したストーマ装具が、推奨および好ましい着用時間を満たせる
- 装具の種類**
個々のニーズ、体形的特徴、ストーマ・排泄物の種類への対応ができる

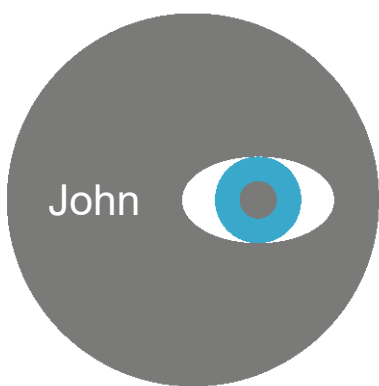
製品自体の特性

- 皮膚保護剤の特性**
皮膚への粘着性、吸水性、侵食性
- フィルター性能と容量**
固形や液体の排泄物をストーマ袋内に保持し、バルーンや膨張を防ぐ

ノート

症例：ジョンさんの場合

これは、日頃のストーマケアにおけるストーマ保有者のリスク評価に、リスク因子モデルをどのように活用していくかを示しています。リスク因子モデルを一つの指針として活用することで、ストーマ周囲皮膚障害を防ぐための潜在的な問題点を特定することができます。



ジョンさんのリスク因子

永久的回腸人工肛門を造設

| | |
|--------------|--|
| 年齢： | 41 歳 |
| 婚姻歴： | 結婚して妻がいる |
| 身体的特徴： | 過去 5 カ月間に体重が減少し、痩せている |
| 病歴： | 16 歳でクローン病と診断された。3 年前に、結腸の半分と回腸の一部を切除した。4 カ月前、結腸を切除したが、直腸は温存した。 |
| ストーママーキング： | 手術前に実施した |
| ストーマの位置： | マーキングと一致している（イレオストミーは円形である） |
| 使用している製品： | 下部開放型の二品系平面装具（プレカット）。ジョンさんは、瘢痕やしわを補整し、安定した密着性を確保するため、用手成形皮膚保護剤をいくつか使用している。 |
| 排泄物の性状： | ブリストル便性状スケールで 7 であり、液体から水様の排泄物 |
| ストーマ用品の入手方法： | ストーマ装具販売店から購入 |
| 1 カ月の使用量： | 頻回な漏れにより 1 日 1 回交換し、1 カ月に 30 枚ずつ使用している |
| 退院後の状況： | ジョンさんは免疫抑制療法を受けており、主治医の定期的な診察を受けている。ストーマ外来を受診するには自分で連絡しなければならない |

ストーマ周囲皮膚障害を防ぐために、一緒に頑張りましょう

ストーマケアは個別性が高く、患者さんの個人的な状況により異なります。多くの因子が患者さんのストーマ周囲皮膚障害（PSC）の発生リスクに影響を及ぼす可能性があります。リスク因子モデルは、3つのカテゴリーに分けることで、これらのリスクを特定しやすくなります。



医療システム

リスク因子には次のようなものがあります。

- 地域の文化や管理体制はストーマを保有する生活にどのような影響を与えているか？
- ストーマ造設術に関する地域のガイドラインはどのようなものか？
- 術前や術後における地域のガイドラインはどのようなものか？
- ストーマ保有者が地域で利用できる製品は何か？

個人のストーマの状況

リスク因子には次のようなものがあります。

- 患者さんのストーマ周囲の体形的特徴はどのような状態か？
- 患者さんのストーマの種類は何か？
- 患者さんの障害やケア方法で必要とされる配慮は何か？
- 患者さんの家族や友人の協力体制はどうか？

ストーマ製品

リスク因子には次のようなものがあります。

- 使用しているストーマ装具は患者さんのストーマ周囲の体形的特徴に合っているか？
- 使用しているストーマ装具は現在の患者さんにどの程度適応しているか？
- 交換間隔はどれくらいか？
- 剥離や装着については簡単に行えているか？

リスク因子モデルはなぜ作成されたのか？

ストーマを保有する人にとって、ストーマ周囲皮膚障害（PSC）は悪循環を引き起こす可能性があります。一漏れによってストーマ周囲の皮膚に炎症が起き、製品を皮膚に貼付できなくなると、更に漏れを助長させます。このような状態はストーマ周囲皮膚障害を悪化させ、多くのケースでは、患者さんの生活の質を低下させます¹。

このような負のサイクルを断ち切るには、すべてのストーマ保有者のストーマ周囲皮膚障害（PSC）のリスクを個別的に評価することが重要です。リスク因子モデルは、日頃のストーマケアにおけるストーマ保有者のリスク評価が簡単にできるよう考案されたものです。

リスク因子モデルはどのようにして作成されたのか？

ストーマ周囲皮膚障害の発生に関連のある危険因子について、詳細な系統的レビューが実施されました。18カ国を代表する各国のCOF*を含む専門家グループが、リスク因子の特定とレビュー、整合性について議論しました。その結果、35カ国におけるストーマケアの専門家から得られた4000を超える回答を土台に、改良デルファイ法によるプロセスを適用し、国際的なコンセンサスを経たリスク因子モデルが誕生しました。このような取り組みから生まれたリスク因子モデルは、専門家グループや国際的なCOFからも承認が得られています。

リスク因子モデルを有効に活用できるのは誰ですか？

リスク因子モデルは、医療従事者が個々の患者のニーズを評価するために構成されています。一結果的に、ストーマを保有するすべての人に対する標準治療の改善に役立ちます。

リスク因子モデルの利点を得られる患者さんはどのくらいいますか？

- オストミー製品を使用する人の**88%**がストーマ周囲皮膚障害を経験しています²。
- ストーマ保有者からの相談の**10件のうち7件**は、漏れと皮膚障害に関連するものです³。
- ストーマ周囲皮膚障害（PSC）があるストーマ保有者のうち、問題を認識しているのは**半数未満**です。治療を受けているのはわずか**16%**にしか過ぎません⁴。

* Coloplast Ostomy Forum (COF) では世界中のトップレベルの専門家（オストミーケア看護師）が集まって互いに学び合い、それぞれの洞察をコロプラストと共有しています。

1. Rolstad, B. S. et al., PERISTOMAL SKIN COMPLICATIONS: PREVENTION AND MANAGEMENT, Ostomy/Wound Management 2004;50(9):68-77.
2. Ostomy Life Study 2019, Consumer survey, Coloplast, Data on file, PM-10499.
3. Ostomy Life Study 2019, Nurse survey, Coloplast, Data on file, PM-11947.
4. Nybæk, H. et al., Skin Problems in Ostomy Patients: A Case-control Study of Risk Factors, Acta Derm Venereol 2009; 89: 64–67.

オストミーケア/コンチネンスケア/ wound&スキんケア/インターベンショナルウロロジ

Coloplast A/S, Høldedam 1, 3050 Humlebaek, Denmark.PM-17056

www.coloplast.com コロプラストのロゴは Coloplast A/S の登録商標です。© [2021-12.] 無断転載を禁じます。Coloplast A/S

